

第5期雄武町総合計画策定審議会専門部会報告（基本構想）

部会名【総務・行財政部会】

部会長 高橋 進
部会長代理 佐藤 忠英
部会員 安瀬 勇、小野 由美、木元之生、今 哲、
竹田 浩二、平田 徹

会議開催状況

- ・ 5月30日（町民センター） 7名出席
- ・ 6月11日（地域交流センター） 5名出席
- ・ 6月18日（地域交流センター） 5名出席

審議結果

【1 はつらつ・雄武 ～地域産業の振興】

“モノづくり力を高め”とあるが、「モノづくり」に関しては、一企業で具現化するには難しい部分もあり、町からの積極的な働きかけが必要。

IT技術を活用した積極的なPRが必要。

冬期間における加工場の稼働については、雇用の面からも必要。

遊休農地を活用した農業生産や上幌内地区への企業誘致の検討が必要。

1次産業の担い手確保と人づくりが必要。

地産地消という考え方を取り入れていくことが必要。

町有施設の積極的な活用が必要。

【2 めくもり・雄武 ～保健・医療・福祉の充実】

地震や災害時にボランティアとして動けるネットワークづくりが必要。

まちづくりにおいては町民の健康が一番であることから、健康意識を高めるための啓発・PRが必要。

【3 のびやか・雄武 ～教育・文化の振興】

文化・スポーツの振興については、指導者の育成が必要。

文化講演会等については、隔年開催や他市町村との連携により内容の充実を図ることが必要。

産業体験や学校給食への地場製品の活用を図り、子どもたちに雄武の良さを知ってもらうことも必要。

スポーツセンターの充実など、スポーツができる環境の整備が必要。
地域間交流（益子・武雄）を引き続き継続することが必要。

【4 うるおい・雄武 ～生活環境・生活基盤の充実】

他の医療機関を結ぶ道路交通網の充実（除雪を含む）が必要。
高齢者等の情報を行政と住民が共有すべきである。
条例の制定によるマナーの向上（タバコのポイ捨て等）の検討が必要。
生ごみの有効活用（堆肥・蓄熱・発電）と新エネルギー（風力発電等）の利用を図ることが必要。

【5 ささえあい・雄武 ～協働によるまちづくりの推進】

情報公開を積極的に進めていくことが必要。
町の大きな方向性を決める際には、住民投票も一つの方法となる。
自助・共助・公助による役割分担を明確にすることが必要。

【その他】

総合計画の特徴として、高齢者の健康増進により医療費の減少を図るなどの高齢化の対応についての記載が必要。
政策指標については、平成29年度がゴールではないという考え方が必要。
「計画・実施・評価・改善のサイクル」について、“住民意思の反映に努めます。”は“住民意思を反映させます。”に改める。